

(第3回金融教育懇談会資料)

初等中等教育における金融教育

横浜国立大学 西村 隆男

1 学校における金融教育のねらい

単にお金の価値や物の大切さを認識させる価値教育とは異なって、むしろ、社会経済環境の変化に対応するたくましく生きる力を育むもの、つまり金銭管理・金融行動を通じての意思決定能力や、社会認識に基づいた市場への影響力を行使できる能力を養うものである。換言すれば、自立した個人として判断し行動できる力を育み、社会の一員として社会性あふれる人間像を形成する教育活動と位置づける。

2 金融教育の意義

少子高齢社会下の年金制度の見直し、自力救済型社会への移行に伴う金融商品の多様化・高度化、IT化社会の購買手段の変容などバブル崩壊後の加速度的な金融環境の変化の中で、自立した個人として、自力で判断し意思決定できる能力を育てることが社会的要請と認識する。

3 金融教育の方法

疑似体験、市場見学、生産活動・販売活動など実践的、体験的に行うことが望ましい。生活科、社会科・公民科、家庭科などの教科および総合学習の時間を活用したい。

内容として、金銭管理学習、クレジット学習、投資学習、リスクマネジメント学習などを中心とした金融消費者教育、さらに起業家教育、キャリア教育などを軸にして行うべきであろう。

4 金融教育の効果

金融教育を実践することは、次のような能力開発が期待される。

生活自立力

社会認識力

意思決定力

キャリア形成（適切な職業観）

5 金融教育推進に向けて考えるべき課題

- ・金融教育の定義づけ、体系化の必要
- ・学習指導要領への明確な位置づけ
- ・関係機関によるコンソーシアムの設立
- ・海外の金融教育事情の研究、紹介
- ・金融教育推進法の検討（米国 FLEC を参考に）

(参考資料)

英国の金融教育カリキュラムから

PSHE および Citizenship の要素	キーステージ 1 第 1～2 学年	キーステージ 2 第 3～6 学年	キーステージ 3 第 7～9 学年	キーステージ 4 第 10～11 学年
自信と責任感を育成し、能力を最大限発揮させる	生活の中でのお金について学習し、賢いお金の使い方や貯め方を知る	お金の取り扱い方や、将来のニーズやウォンツは貯蓄によって実現されることを学ぶ	お金を使い貯めることに何が影響を与えるか、個人の資金管理能力を高めるにはどうすべきか学ぶ	金融に関する意思決定や、個人の資金管理上の予算、貯蓄などを含む金融手段や金融サービスを学ぶ
市民としての積極的な役割を果たせるよう準備する	お金が様々なことから生まれ、様々な目的に使用されることを理解する	資源は様々な方法で配分され、その経済的選択が個人・地域・環境に影響を与えることを学ぶ	地方および中央の財政や地球規模のコミュニティとしての世界の経済的影響力について学ぶ	ビジネスや金融サービスの役割、世界経済の相互依存を含む経済の諸機能を学ぶ。消費者、従業員、経営者としての権利と責任について学ぶ。
より健康的なライフスタイルを育成する	お金の取り扱いの重要性とお金を失うことの結果について学ぶ	少額のお金を使って簡単な金融に関する意思決定を学び、お小遣いや慈善への寄付を含む使い方を考える	保険について学び、リスクを知り管理することや、より健康的なライフスタイルのためのより安全な選択を学ぶ	貯蓄や投資の異なるリスクおよびリターンを評価することを学ぶ
互いの差異を尊重し、良好な人間関係を育成する	お金の使い方は人により様々であり、毎日の生活で出会うお金の使い方や社会的・倫理的ジレンマを考える	人は様々な経済環境にあり生活水準は時と場合により変化することや、様々なお金に対する価値観や態度があることを知る	消費者の選択が他の人々の経済や環境に与える影響を含め、お金の使い方についての社会的・倫理的ジレンマについて学ぶ	個人の金融上の選択によって生じるより広範な社会的、道徳的、倫理的、環境的な影響を学ぶ

Dept. for Education & Employment, “Financial Capability through Personal Financial Education” 2000 より一部省略して抜粋。